



鐵輪 宮崎精鋼株式会社 名古屋市中川区丸米町一丁目1番地 ☎052-361-2191 平成29年9月号

第58期定時株主総会

当社第58期（平成28年6月1日から平成29年5月31日まで）の定時株主総会は本社第3会議室において、去る8月30日午後4時より、新日鐵住金(株)殿、大同特殊鋼(株)殿、(株)メタルワン殿をはじめ株主13名（委任状を含む）が出席して開催されました。

まず、第58期の事業報告が議長である社長からありました。当期は販売量184千トン（前期比7.2%増）、売上高263億円（同5.1%増）、経常利益11億3千6百万円（同113.5%増）、税引前当期純利益11億6百万円（同111.3%増）となりました。

28年度を顧みますと、海外では、新興国において、資源価格の底入れや景気刺激策の効果等から、年度後半にかけて経済の持ち直しの動きが見られました。また、先進国では、英国のEU離脱表明や米国における新政権誕生などを背景に、政治および経済の先行きの不確実性が高まりましたが、米国経済や欧州経済は堅調な消費に支えられ回復を続け、緩やかな景気回復が続きました。わが国の経済も、企業収益が概ね高水準で推移する中、雇用・所得環境の改善を通じて個人消費に持ち直しの動きが見られたこと等から、緩やかな回復基調が続きました。

昨年度の国内新車販売台数（軽自動車を含む）は前年度比2.8%増の508万台となり2年ぶりに500万台を回復しました。昨年度の自動車国内生産は前年度比1.8%増の936万台となり、1年ぶりに増加となりました。輸出は前年度比1.2%増加して464万台、海外生産は同5.7%増の1,936万台でした。

このような経済環境の下、本社では工場外壁を一新するとともにダイス室の改修などを行い、十四山工場にはCG4号機を設置しました。知多工場においても引張試験機を更新するなど品質及び生産性の向上のための設備投資を継続しました。また、ミヤザキセイコウ・デ・メヒコは昨年9月に工場建屋を完成させ、伸線機2台、切断機3台、連続引抜機1台の設置が完了しました。現在、設置された機械を使って試作を続けるとともに、ISO9001も取得し、本格生産に向け着々と準備を進めています。

中期経営計画「CGF80」2年目の29年度は、販売量183千トン、売上高288億円、経常利益13億5千万円を計画しております。設備投資は、スラグ事業部において、旧立体製品倉庫を改装し検査フロアー及び金型立体倉庫の新設を行います。また、ミヤザキセイコウ・デ・メヒコは、本年10月5日に開所式を執り行い、現地での需要に合わせて今後も設備投資を行っていく予定です。

29年度は国内の自動車生産は横ばいが見込まれています。海外においても米国の自動車販売台数は前年比で減少に転じ、これまで大幅に伸びてきた中国の自動車販売も予断を許さない状況となっており、当社にとって経営環境はより厳しくなる可能性があります。このような環境においても「CGF80」を達成し、創業80周年に向けて世界トップクラスの特殊鋼棒線二次加工メーカーを目指して邁進いたします。

なお、総会では、すべての議案（第1号議案：第58期計算書類承認の件、第2号議案：剰余金の処分の件、第3号議案：取締役10名選任の件）につきご承認をいただきました。第2号議案の剰余金の処分については、期末配当を25円引き上げて1株につき100円とすることなどが承認されました。また、第3号議案では9名の取締役の重任と新たに伊藤友規スラグ事業部長の取締役就任が承認されました。

以上  MIYAZAKI